

# 授業改善書

科目名	保育内容の研究（表現-造形） I
担当者	森本 昭宏

## 授業の概要

本講義では、造形表現にかかわる発達の理解を深め、援助ができる実践的な力を習得。現場で用いられる様々な造形活動を楽しむことから始め、子どもたちへの適切な援助・配慮について理解するとともに、保育を改善する視点を身に付ける。具体的な指導場面を想定した模擬保育や指導案作成を通じて、子どもの多様な表現にも対応できる応用力のある指導者を目指していく。

また、幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域のねらい及び全体構想、作品評価の考え方を理解する。造形における幼児の発達や造形あそび等の過程を理解した保育構想の向上に取り組んでいく。

## 授業の問題点

シラバスに明示した予習復習の項目は、以下のようなものであった。「子どもの絵を読み解くためには、学生自身が感性を豊かにし、造形力を育てるための努力と様々な経験が必要である。授業に主体的に取り組み、空き時間などをも利用した継続的な学習意欲・態度を期待する。」この授業は2クラスであったが、予習復習の項目の評価は4.33と4.53であった。3時限目の小学校免許を希望取得している学生に、空き時間の活用が多く見られた。また、授業開始の全体説明では分かりやすい説明を心がけたが、影絵の制作やパネルシアターなど、共同制作を含む難しい工程からか評価が低かった。ラスト2つの課題は教科書にない題材であったので、より具体的な資料作成と提示を今後は心掛けていきたい。

保育・教育の造形指導者として、子どもの表現を受け止め・共に楽しみ・そして感性を高めるように、現場で用いられる様々な造形活動を先ず学生自身が楽しむことから始めた。特に共同制作では質の高い発表が見られ、協調性などが養われたと感じる。様々な素材に親しみ経験して身に付けていく今回の題材は、指導上の留意点などを十分理解することができた。後輩への参考資料となる作品の多い学年であった。

## 学生の授業満足度

全体的に振り返って授業に満足できましたかという質問に対して、1クラス目は4.47、2クラス目は4.41であった。比較的高い数値ではあるが、例年よりはやや低い傾向であった。制作時間に余裕があり、「授業内容」が知的好奇心を刺激するような面白いものであれば、学生は満足するのではないかと考えている。題材の目的、動機付けについて検討していきたい。

全体指導の充実と期間巡視によるきめ細かい声かけ指導を工夫していきたいと考える。

## 授業改善の課題と方策

造形表現の材料と用具、色の三属性、色相環についての理解と吹き絵、紙版画、なぐりがき期～図式期の造形表現の発達段階、パネルシアター、影絵のグループ活動と、様々な題材を今年度も取り上げた。題材を詰め込みすぎている傾向にある。冬休みを利用して、学生は課題を学期末までに取り組むことが出来ていた。例年は、その題材作品を図工室や廊下に掲示して、学年と他学年にフィードバックしているが今回は出来なかった。授業後の延長戦と捉えて教育効果を狙っているため、今後は廊下の掲示物を充実させていきたい

## その他

特になし